

第二夜

玄象の琵琶

〔今昔物語集〕 卷二十四 第二十四

①

今は昔、*村上天皇の御代に、玄象といふ琵琶にはかに失せにけり。これは世の伝はり物

皇室伝来の宝

*村上天皇：平安時代前期の天皇。
*玄象：中国唐代の琵琶師の作。玄上ともいう。

にて、いみじき公財にてあるを、かく失せぬれば、天皇きはめて嘆かせたまひて、かかるや

朝廷の文化財であったのだが

このような

*琵琶：弦楽器

・琵琶の絵を描きましょう。図説国語P.30

んごとなき伝はり物の、わが代にして失せぬることと思ひ嘆かせたまふもことわりなり。これは貴重なる伝来品

は人の盗みたるにやあらむ。ただし、人盗み取らば持つべきやうなきことなれば、天皇をよからず思ひ奉る者世にありて、取りて損じ失ひたるなめりとぞ疑はれける。

しかし

個人で持ち続けることができそうもないことなので

壊して無くしてしまったのだろうと

しかるあひだ、源博雅といふ人、殿上人にてあり。この人、管弦の道きはめたる人

にて、この玄象の失せたることを思ひ嘆きけるほどに、人みな静かなるのちに、博雅、清涼殿

人がみな寝静まった後に

清涼殿で

*管弦：音楽の演奏。
*源博雅：平安時代の雅楽家。博雅の三位と呼ばれた。

にして聞きけるに、南の方に当たりてかの玄象を弾く音あり。きはめてあやしく思へば、もし

南の方角に当たる方向で

もしかして

ひが耳かと思ひてよく聞くに、まさしく玄象の音なり。

空耳かと

*清涼殿：内裏（宮中）の中で、天皇が日常生活をしている御殿。

重要古文単語

Ⅱ 辞書・スマホなどを使って意味を調べよう。

○いみじ… ()

良い意味でも悪い意味でも程度のはげしい様子を表す言葉。

○やんごとなし… ()

元の意味は「止む事無し」で「捨てておくことができない」という意味。そこから、放っておけない大切なものに対して使われるようになった。

○ことわりなり… ()

「ことわり」は「ものの道理」「理由」。現代語の「断る」は、ものの道理を考えて「ことわる」ということ。「ことわりなり」は「ものの道理」にかなった状態を示す形容動詞。

○やう… ()

漢字をあてれば「様」。特定の物事を言い表しているのでは無い。こういうときは、「方法」「理由」という意味で使われることが多い。

○なめり… ()

「なめり」は本来は「なるめり(断定+推定)」と言うべき言葉。それがなまって「なんめり」と発音するようになった(音便)。しかし、古代日本語で「ん」を表記する方法が無かったので「なめり」と表記された。

○あやし… ()

「あや」は驚きを表す感動詞。「目もあやなり」はびっくりするほど良い・悪いことを指す。平安貴族は保守的なので、変化を嫌った。従って「あやし」は悪い意味で使われることが多くなった。身分が「卑しい」も同じ語源から来ている。

古典文法

係り結びの法則…文脈で判断

○人の盗みたるにやあらむ。

係助詞「や」の文法上の意味は、「疑問」と「反語」である。「疑問」ならば、「誰か人が盗んだのだろうか。」とまだ犯人の確信が持てない状態。「反語」ならば「誰か人が盗んだのだろうか。いや人間以外のものしわざだ。」と確信を持っている状態。この場面では、まだ誰が犯人の確信が持っていないので、「や」は () と考えるべきである。

読解

問1 村上天皇は、玄象が無くなると、なぜひどく嘆き悲しんだのか。説明しなさい

問2 玄象を盗んだとしても、あまりに名器なので、演奏しても売ってもすぐに発覚してしまう。だとすると、どんなことが想像されたとしているのか。説明しなさい。

問3 博雅が、深夜宮中で聞いた琵琶の音を、玄象に違いないと分かったのはなぜか。

②

博雅これを聞き誤るべきことにあらねば、返す返す驚きあやしんで、人にも告げずして、* 直衣

姿にてただ一人、沓ばかりを履きて、* 小舎人童一人を具して、* 衛門の陣を出でて南さまに

南の方向に

行くに、なほ南にこの音あり。* 近きにこそありけれと思ひて行くに、* 朱雀門に至りぬ。なほ同

* 朱雀門…大内裏(官庁街)南中央にあつた門。

じやうに南に聞こゆ。しかれば* 朱雀の大路を南に向かひて行く。心に思はく、これは玄象を人

* 朱雀の大路…京の中心を南北に走り、町を東西に分けていた朱雀大路。

の盗みて、* 楼観にしてひそかに弾くにこそありぬれと思ひて、急ぎ行きて楼観に至り着きて聞

* 楼観…寺院などにある、高層の建物。羅城門…京市街の南の入口にあつた門。

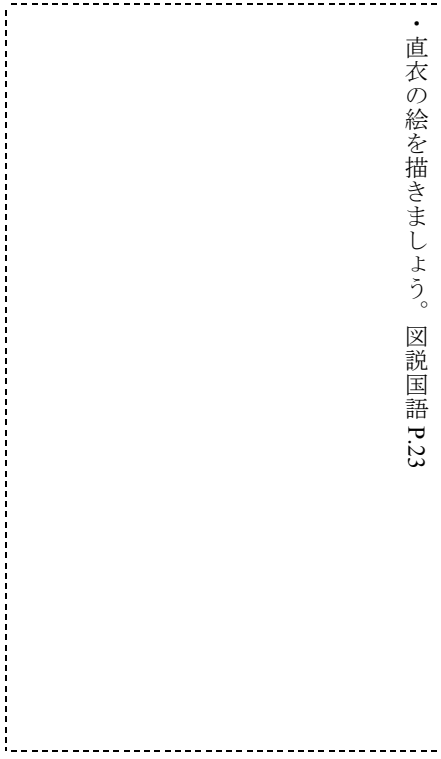
くに、なほ南にいと近く聞こゆ。しかればなほ南に行くに、すでに* 羅城門に至りぬ。

読解

重要古文単語

○直衣

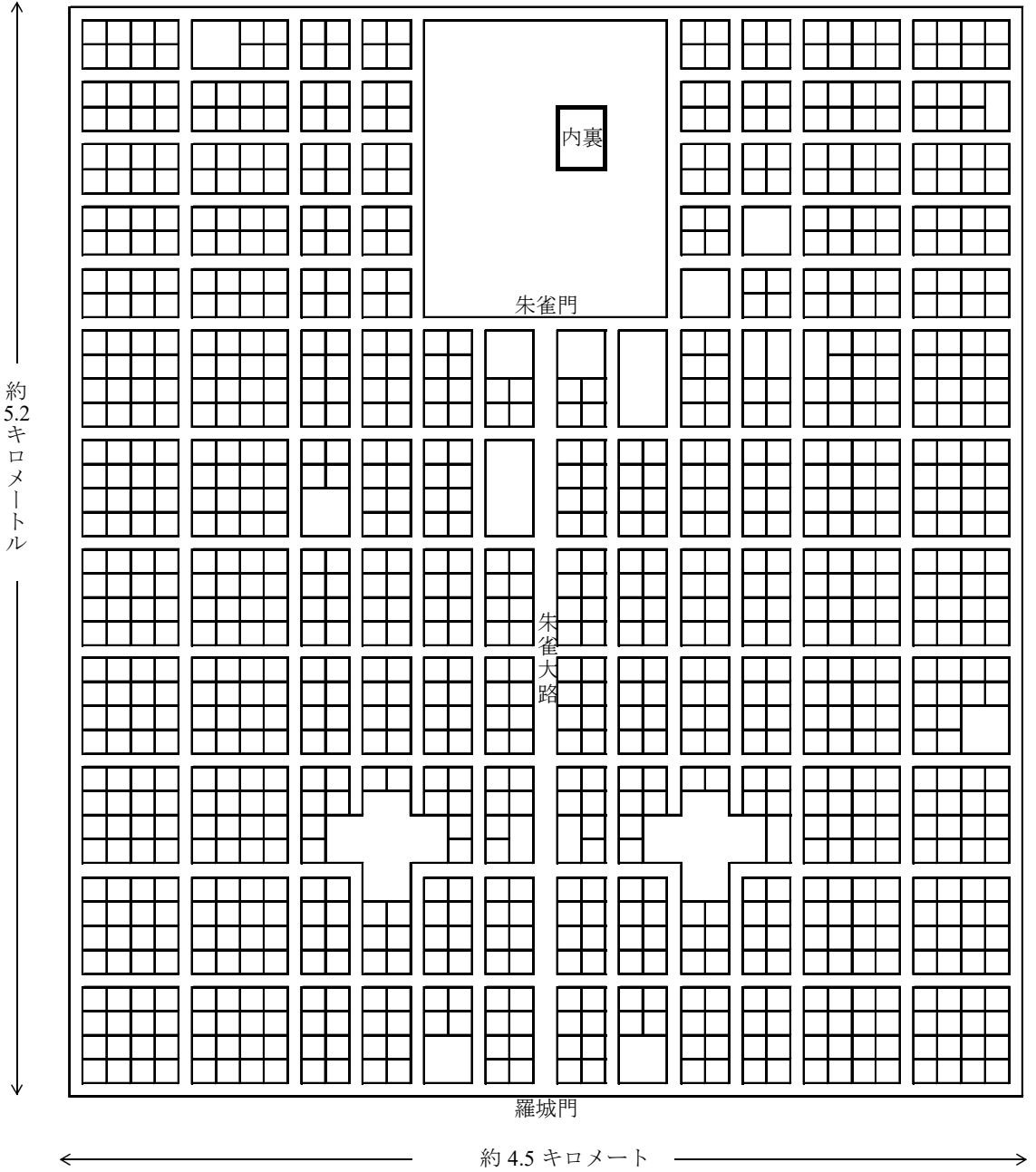
・直衣の絵を描きましょう。図説国語 P.23



問4 「近きこそありけれと思ひて」とあるが、博雅は何が「近き」にあると思つているのか。答えなさい。

問5 「朱雀の大路を南に向かひて行く。」とあるが、このとき博雅は、どんな考えでどこを目指していたか。説明しなさい。

平安京図



※ 博雅は深夜にどのくらい歩いたのだろうか。人の歩くスピードを時速4キロメートルとすると。
 (約 キロメートル ・ 約 時間 分)

③

門の下に立ちて聞くに、門の＊上の層こゝに玄象を弾ひくなりけり。博雅これを聞くにあさましく思

ひて、「これは人の弾くにはあらず、定めて鬼などの弾ひくきつとにこそはあらめ。」と思ふほどに、弾

きやみぬ。しばらくありてまた弾く。そのときに博雅の言はく、「これは誰たが弾きたまふぞ。玄

象日ごろ失せて、天皇みかど求め尋ねさせたまふあひだ、今夜清涼殿にして聞くに、南の方にこの音

くなので

あり。よつて尋ね来たれるなり。」と。そのときに弾きやみて、天井より下おるる物あり。恐ろし

くて立ち退のきて見れば、玄象げんじやうに繩を付けて下ろしたり。しかれば博雅ひろまな、恐れながらこれを取り

て、＊内裏うちに帰り参りてこの由よしを奏そうして、玄象を奉たてまつりたりければ、天皇いみじく感ぜさせたま

ひて、「鬼の取りたりけるなり。」となむ仰おほせられける。これを聞く人みな博雅をなむ褒ほめける。

この玄象は、生きたる者のやうにぞある。つたなく弾きて弾きおほせざれば、腹立ちて鳴ら

下手に弾いて弾き切れなければ

ぬなり。あるときには、内裏うちに焼や亡まあるにも、人取り出いださずといへども、玄象おのづから出

でて庭にあり。これ奇異きいのことどもなりとなむ、語り伝へたとや。

＊上の層…二階

＊内裏…天皇のいる宮中。「だいら」という読み方もあるが。通常「うち」と読むことが多い。

ここで場面となるのは、芥川龍之介の小説でもおなじみの羅城門です。羅城門は平安京と外の世界をつなぐ境界です。水辺という境界がそうであるように、境界は魔物の出やすい場所です。そしてこの周りには人家はほとんどありませんでした、
平安京の西側半分は沼地だったので中央にあるはずの朱雀大路は実は街はずれにあることとなります。道幅八〇メートルもある原っぱのような朱雀大路の端に、この巨大な羅城門だけが、ぬっと建っていることとなります。さぞ異様な光景だったことでしょう。
深夜、そんな所に行くだけでも、この博雅という人は、肝が据わった人だったのかも知れません。

重要古文単語

|| 辞書・スマホなどを使って意味を調べよう。

○あさまし… ()

語源は「あさむ」(驚きあきれる)。古文では「心がいやしい」という意味は無い。良いときにも悪いときにも使われる言葉だったが、だんだん悪い意味に多く用いられるようになった。これは「あやし」と同じ現象。

○日ごろ… ()

「年ごろ」は「ここ数年来」。「月ごろ」は「ここ数ヶ月来」。

○奏す… ()

「奏す」は天皇に対する時だけ使う謙譲語。同じような言葉で、皇后、皇太子に対して「申し上げる」時は、「啓す」と言う。

○奉る… ()

目上の人に何か物を渡す意味の謙譲語。

古典文法

係り結びの法則… 図説国語・412を見て答えましょう。

(文法上の意味) (活用形) 形

○人の盗みたるにやあらむ

(文法上の意味) (活用形) 形

○取りて損じ失ひたるなめりとぞ疑はれける。

(文法上の意味) (活用形) 形

○定めて鬼などの弾くにこそはあらめ。

(文法上の意味) (活用形) 形

○これを聞く人みな博雅をなむ褒めける。

読解

問7 玄象を弾く音は、どこで鳴っていたか。答えなさい。

問8 玄象が鳴っている場所をつきとめたとき、博雅は、そこから聞こえる玄象の音についてどう思ったか。説明しなさい。

問9 「玄象に縄を付けて下ろしたり。」とあるが、玄象を下ろしたのは、誰だと思われるか。

問10 「この由を奏して」の「この由」とは、どんなことについての事の次第を指すか。説明しなさい。

問11 「この由を奏して」の「奏して」とは、誰に対する行為か。